

ふくおかちゅうおう

福岡中央地区（第3期）

（富山県高岡市）

○ 計画期間 令和元年度～令和5年度

○ 面積 39ha

○ 交付対象事業費 1106.6百万円

○ 市人口 166,641人

ポイント

安全・安心・快適な生活環境を創出するとともに、歴史・文化資産を活かし、地域に関わる全ての方々の共生と交流を促す。

地区概要

公園や広場といった交流拠点や、区画道路及び「歴史まちづくり計画」における旧北陸街道等の回遊軸の整備を進め、駅前広場の交通結節機能を強化するほか、回遊性を創出するためのソフト事業に取組み、計画区域内の点（交流拠点）を線（回遊軸）で繋ぎ、面として都市の再生を図る。

目標 大目標「福岡中央地区が有する生活基盤や歴史・文化資産を活かした『地域拠点の形成』」

目標1：安全性、快適性、利便性の高い生活拠点づくり

目標2：歴史・文化資産を活かした交流拠点づくり

指標

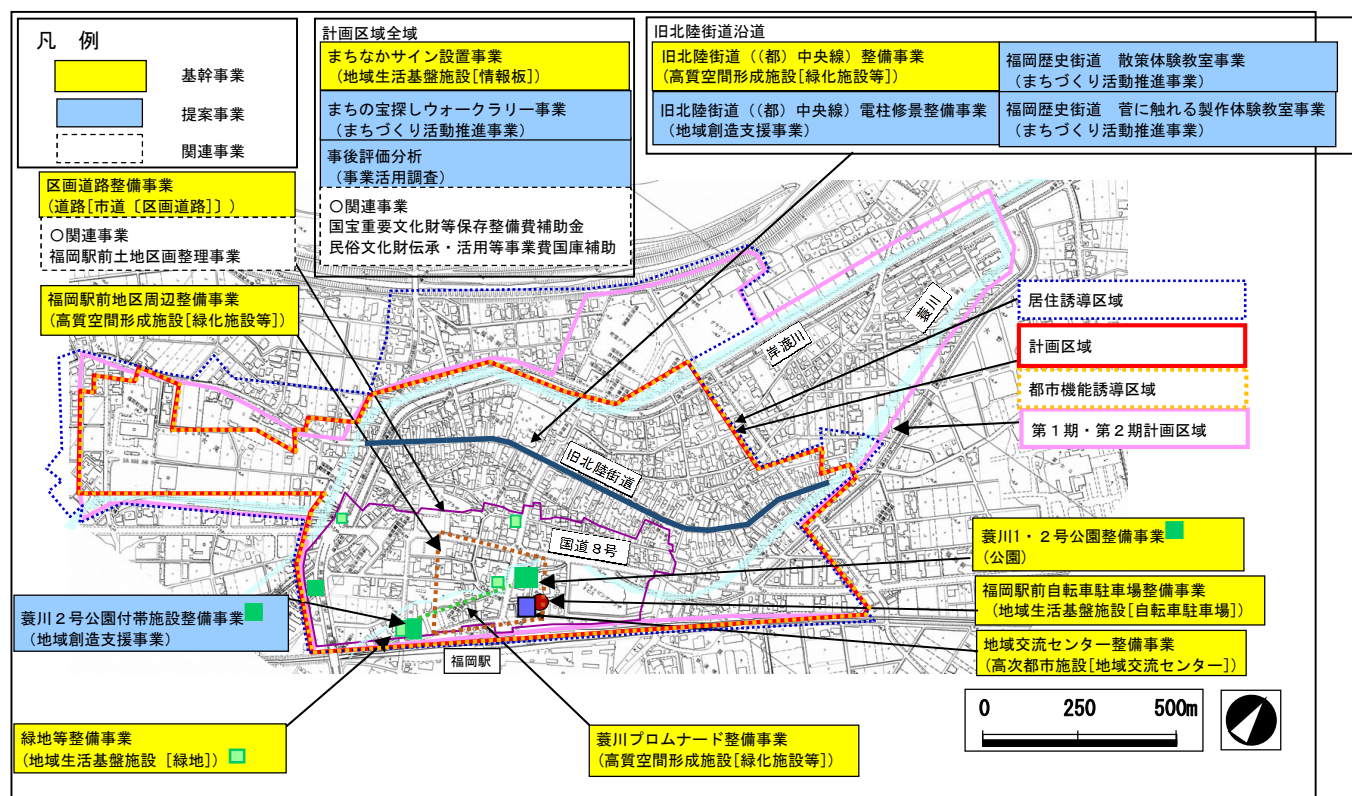
居住性・回遊性の向上を目指し、人口密度の維持と住民満足度の改善、交流人口の増加を指標として設定する。

地区内の人口密度	30 (H27)	→	30 (R5)
住民満足度	48 (H30)	→	58 (R5)
文化交流施設の入館者数	125,365 (H29)	→	140,000 (R5)

事業内容

基幹事業（1047.8百万円） → 道路、菟川1・2号公園、福岡駅前地区周辺、地域交流センターなど

提案事業（58.8百万円） → 菟川2号公園付帯施設整備事業、福岡歴史街道散策体験教室など



地区の現況と課題

地区の現況

本地区は、あいの風とやま鉄道福岡駅を核とし、旧北陸街道（県道岡・笹川線）、国道8号、（都）駅前通り線を軸とした中心市街地が形成されており、旧北陸街道では菅笠の集散地として栄えた歴史的風情が残されている。平成27年度に「旧北陸街道沿道（菅笠問屋の街並み）」「越中福岡の菅笠製作技術」が文化庁の「日本遺産」に指定された。

地区の課題

平成21年度より都市再生整備計画事業の第1期事業、平成26年度より第2期事業を進め、都市基盤の充実による人口減少率の低下、文化交流施設の機能強化による利用者増など一定の成果が見られた一方、歩行者回遊が十分に創出されていない等の残された課題がある。また、歴史や文化を活かしたまちづくりやコンパクトアンドネットワークのまちづくりといった新たな政策課題に直面している。

提案事業の特徴

菰川2号公園付帯施設整備事業

基幹事業と一体となって、公園の安全性や景観を向上させるために必要な付帯施設を整備する。

（都）中央線 旧北陸街道電柱修景整備事業

基幹事業と合わせて電柱の修景化を行い、旧北陸街道沿道（菅笠問屋の街並み）の景観性を向上させるもの。

地域まちづくり活動推進事業

菅笠問屋の歴史的な町並みである旧北陸街道を実際に歩いて福岡エリアの歴史・文化を学んだり、福岡地域特産の菅笠の材料「スゲ」を使った小物づくりについて学ぶ等の事業を実施し、福岡エリアの歴史や文化の価値を高める。

計画策定プロセス

庁内検討会の開催

計画・具体的事業・施策を組織横断的に検討して迅速に進めるため、庁内検討会を設けて組織内の合意形成を図っている（H19～）。

住民アンケートの実施・都市再生整備計画事後評価委員会等

第2期（平成26年～平成30年）の福岡中央地区都市再生整備計画の事後評価において、住民アンケート（H30.7）を実施した。その後、事後評価委員会（H30.11）において、第2期計画で残された課題や新たな課題とその対応方針が示された。これらを整理し、福岡中央地区において進めるべき取組みを、第3期計画に位置づけた。

景観形成市民団体の結成

住民が景観まちづくりを進める団体を結成（H21.5～）し、市が旧北陸街道福岡地区を景観形成重点地区に指定（H21.11～）し、「福岡市歴史まちづくり計画」（H23.3）の中で維持及び向上すべき歴史的風致に位置づけるなど、伝統的町並み景観の保全に取り組んでいる。



▲整備前の旧北陸街道



▲整備前の菰川1号公園



▲整備前の福岡駅前



▲事後評価委員会（第2期）



▲平成29年度に国の伝統工芸品に指定された「越中福岡の菅笠」